住宅街路地裏の「隠れ家」のような喫茶店

地域の人たちが集まりコミュニケーションの場に

閑静な住宅街の一角に、突如としてオープンした喫茶店「珈琲屋きむら」。入り組んだ路地をうろうろして、やっと見つける木造りの洒落た外観は、街中にあることを忘れさせるような「隠れ家」のような存在。こだわりのコーヒーと手作りのケーキが評判で、サークル仲間や地域行事の打ち合わせなどで地元の人たちでにぎわう。また異空間とコーヒーやケーキの味の噂を聞きつけて遠方から足を運ぶ人たちもいる。

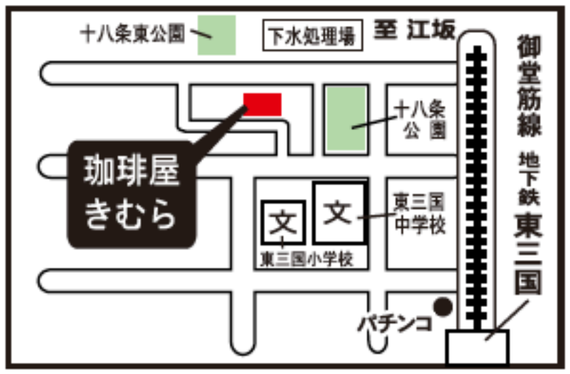
「自家焙煎の珈琲と手作りケーキが自慢です」と、来店を呼びかける木村夫妻

風変わりな喫茶店をオープンさせたのは、十八条1丁目に住む木村吉秀・理恵さん夫婦。住居に隣接して、かつてご主人の実母が住んでいた8畳の和室を改装して「喫茶店を開こう」と夫婦で話し合ったのは3年ほど前。現在会社勤めの吉秀さんが、「定年を迎えたらコーヒーショップを開きたい」という願いと「何かを始めたい」という理恵さんの思いが重なった。

行動は早く、理恵さんは友人が開く自家焙煎のコーヒー教室とケーキ教室に通い始めた。和室を活かした改装が進むにつれて、ご主人は休日を利用してスギやヒノキの天板を購入し来店客用のテーブルと椅子を完成させた。「木造り、温かみのある雰囲気」を求めていた二人。「手作りにこだわりましたが、何せ素人の領域。テーブルがぐらついてなかなか完成品にならなかった」と苦笑する吉秀さん。

カウンターや吉秀さん力作のテーブルをペーパーで磨き、ニスで仕上げたのは主に理恵さんの仕事。基礎工事以外の塗装はすべて二人で仕上げ、5月18日にオープンさせた。

■地域の人たちの憩いの場に

喫茶店は木曜～日曜の4日間のみの営業で、時間は昼12時(ぐらい)～18時(ぐらい)まで。コーヒー(430円～)は「最高ランクの豆を使って、焙れたてを出します」と自慢の理恵さん。日替わりの手作りケーキ(300円～)とセットで50円引きのサービスも。友人同士で来店していた山中純一さん(西宮市)、石田早苗さん(伊丹市)は「コーヒーとケーキがよく合っています」と声を揃える。

休日は店を手伝う吉秀さん。理恵さんと共に「誰もが気軽に来店してもらえる地域の人たちの憩いの場になれば嬉しい」と微笑む。珈琲屋きむら(生豆自家焙煎の店)06・6392・0954。